

上越地域

液状化履歴

履歴範囲

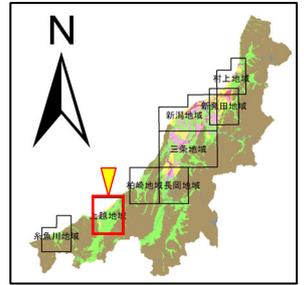
履歴地点(点)

液状化危険度

危険度 4
危険度 3
危険度 3
(盛土造成地)

危険度 2
危険度 1
危険度 0

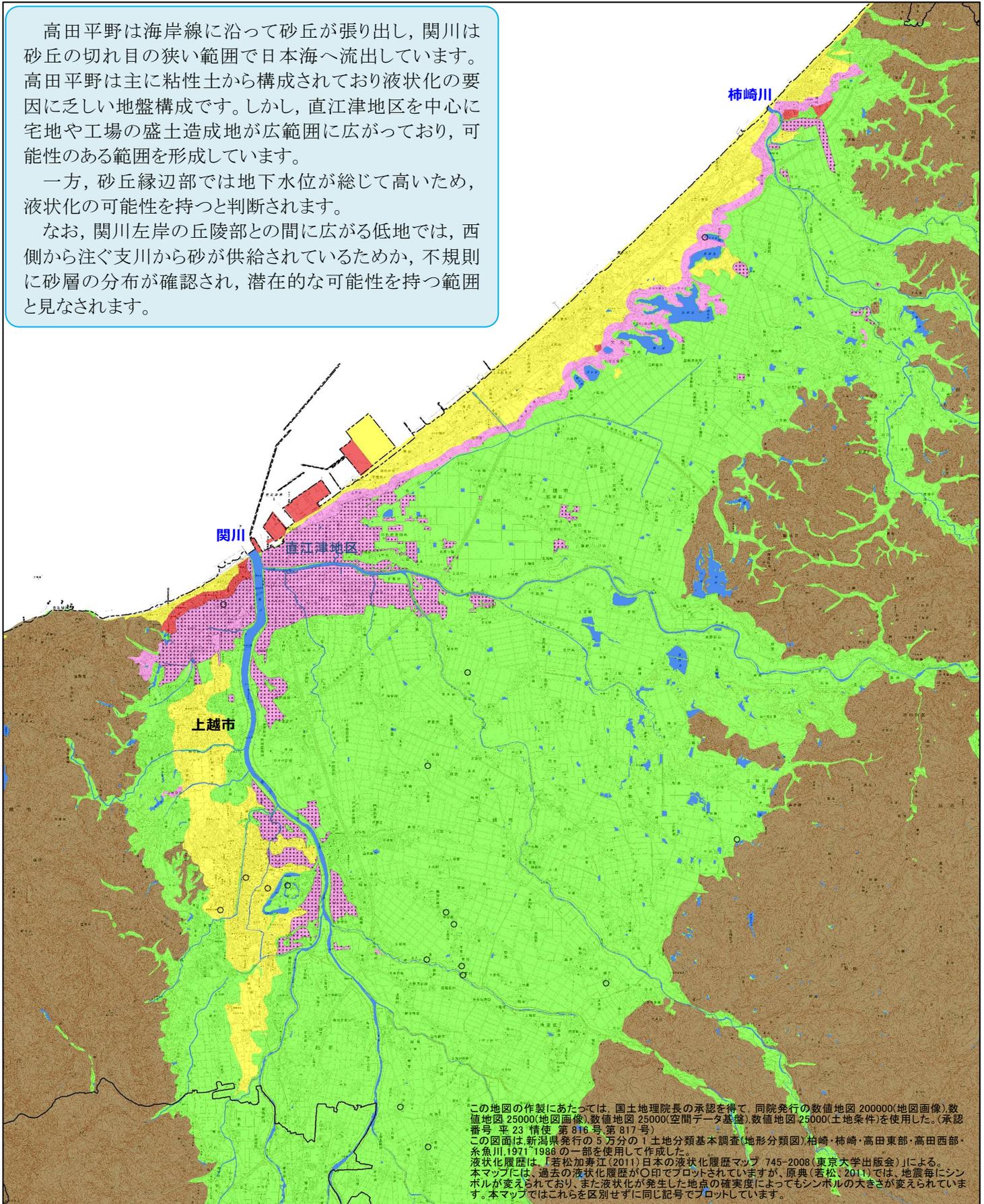
0 1.25 2.5 5 km



高田平野は海岸線に沿って砂丘が張り出し、関川は砂丘の切れ目の狭い範囲で日本海へ流出しています。高田平野は主に粘性土から構成されており液状化の要因に乏しい地盤構成です。しかし、直江津地区を中心に宅地や工場の盛土造成地が広範囲に広がっており、可能性のある範囲を形成しています。

一方、砂丘縁辺部では地下水位が総じて高いため、液状化の可能性を持つと判断されます。

なお、関川左岸の丘陵部との間に広がる低地では、西側から注ぐ支川から砂が供給されているためか、不規則に砂層の分布が確認され、潜在的な可能性を持つ範囲と見なされます。



この地図の作製にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 200000(地図画像)・数値地図 25000(地図画像)・数値地図 25000(空間データ基盤)・数値地図 25000(土地条件)を使用した。(承認番号 平 23 精使 第 816 号 第 817 号)
この図面は新潟県発行の 5 万分の 1 土地分類基本調査(地形分類図)・柏崎・柿崎・高田東部・高田西部・糸魚川 1971-1988 の一部を使用して作成した。
液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」による。本マップには、過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松(2011))では、地震毎にシンボルが変えられており、また液状化が発生した地点の確率度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せず同じ記号でプロットしています。